

家畜飼養管理Ⅱ

講師名	佐々木 直	実務経験等	農業改良普及センター・農業研究センターでの普及指導員・専門研究員としての経験を活かし、肥育牛を中心に肉用牛の整理特性を理解させるための講義を担当している。
-----	-------	-------	---

科目区分	学科・経営科	必修・選択 (必修、自由)区分	履修 学年	開講 学期	標準 時間	単位数
畜産学科・専門科目	畜産・肉畜	必修	2	通年	75	5
使用教科書・副教材	どんどんよくなる肥育管理(松本大作、日本畜産振興会)、自作プリント他					
授業の目的	肥育牛を中心に肉用牛の生理特性を理解する。					
授業の到達目標	肉用牛の合理的な飼養管理技術と経営管理能力全般について知識を習得する。					

月	学習項目	学習事項	時間	授業 形式	備考 (提出物等)
4月	衛生対策 放牧管理技術	本校HACCPシステム(防疫・衛生対策)について理解する。 放牧牛の管理技術について理解を深める	4	講義	
5月	肥育牛管理技術	牛の体の構造と消化の特徴について理解する	14	講義	
6月	肥育牛管理技術	脂肪交雑の入る仕組み・肉色について理解する	6	講義	
7月	ICT活用 肥育牛管理技術	ICT技術を活用した牛群管理技術について学ぶ。 子牛育成期の管理方法について理解する 肥育前期の管理方法について理解する	2	講義	
8月	肥育牛管理技術	肥育中期の管理方法について理解する	8	講義	
9月	肥育牛管理技術	肥育の飼料と代謝疾病について学び、疾病予防方法について理解する 出荷牛の枝肉調査と調査方法について学ぶ	6	講義 事例 研究	レポート
12月	家畜飼養論	肉用牛飼育をめぐる現状と課題について理解を深める	22	講義	
1月	肥育牛管理技術	季節の管理の特徴についての理解を深める	14	講義	
		合計	76	時間	

成績評価の方式(評価項目、評価の観点、割合等)

定期試験、学習態度、出席状況及びレポート(事例研等)の内容により評価する。
 評価割合:前期 筆記試験70%、平常点30%(レポート、学習態度、出席状況)
 後期 レポート70%、平常点30%(学習態度、出席状況)

履修に当たっての留意点等

受講に際しては教科書、参考書等に目を通しておくことが望ましい。授業は教科書に沿って行うが、項目が入れ替わることもあるので注意すること。授業形態は主に板書をして行う。
 農場での授業、校外事例研究の際は事前に連絡するが、衛生管理(服装等)に十分注意すること。